

音楽文化研究科 担当教員

前 前期課程 科目担当

前 前期課程 科目および研究指導担当

後 後期課程 科目担当

後 後期課程 科目および研究指導担当

専任教員



学部長・教授
高橋 大海
(声楽)

前 後

【略歴】1968年東京芸術大学大学院音楽研究科修了。お茶の水女子大学助教授、東京芸術大学教授を経て、2003年より本学教授。日本声楽アカデミー、日本声楽家協会、二期会、東洋音楽学会などの会員。東京芸術大学名誉教授。



学部長補佐・教授
八木 正一
(音楽教育学)

前 後

【略歴】広島大学大学院博士課程前期教育学研究科修了。教育学修士。専門は音楽教育学。高知大学助教授、愛知教育大学助教授、埼玉大学教授などを経て現職。著書に『たのしい音楽授業のつくり方』(音楽之友社)『音楽指導クニック』①～⑩(学事出版)ほか。



教授
八杉 忠利
(作曲)

前 後

【略歴】東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。1973年安宅賞受賞。1975年3月東京芸術大学大学院音楽研究科修了。東京芸術大学講師を経て聖徳大学音楽学部教授。管弦楽曲、室内楽曲、ピアノ曲、合唱曲、歌曲等の作品がある。



准教授
小栗 克巳
(作曲)

前 後

【略歴】東京芸術大学作曲科卒業、同大学院修了。日本交響楽振興財団作曲賞、ヒナステラ国際作曲コン1位など、管弦楽曲において数々の受賞。ピアノ、合唱作品やさまざまな楽器の編曲も多数出版。日本作曲家協議会、全日本ピアノ指導者協会正会員。



教授
伊原 直子
(声楽)

前 後

【略歴】東京芸術大学卒業。同大学院修了。ミュンヘン音楽大学修了。芸術選奨文部大臣新人賞及びウイナワールドオペラ歌手養成所にて研修。国際音楽トーナメントオペラ歌手、ストラスブル歌劇場の専属歌手となる。二期会、日本声楽アカデミー会員。東京芸術大学名誉教授。



教授
島崎 智子
(声楽)

前 後

【略歴】東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。二期会オペラスタジオ修了時に最優秀賞受賞。文化庁オペラ研修生修了。芸術家在外派遣研修員。ヴェルディ国際コンクール入選。『蝶々夫人』など、多くのオペラ及びコンサートに出演。



教授
河野 正幸
(声楽・ミュージカル)

前 後

【略歴】東京芸術大学卒業。同大学院音楽研究科修了。教鞭のかたわら数々のコンサートやオペラで活躍。多くの宗教曲などのソリストを務め、新しい日本歌曲の初演でも高い評価を得ている。(社)日本歌曲振興会理事、全日本音楽教育研究会大学部会理事。



准教授
木村 満寿美
(声楽)

前 後

【略歴】東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修了。文化庁芸術家在外研修員として、スカラ座オペラ歌手養成所にて研修。国際音楽トーナメントコンクール第2位入賞。ラウリヴォルビ賞受賞。日本演奏連盟、二期会、東京室内歌劇場各会員。



准教授
市瀬 陽子
(ダンス)

前

【略歴】舞踊と音楽の関わりをテーマに据え、西欧舞踊史の研究を行うと同時に、ダンスの実演、振付・指導、舞台制作など実践面でも活動を展開。1995年より東京芸術大学講師、2008年より昭和音楽大学バレエ教育研究所研究員。



教授
森島 英子
(ピアノ・コレペティートル)

前 後

【略歴】東京芸術大学ピアノ科卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員として、シトウトガルト音楽大学に留学。K.リヒター教授のもとで、リト科を修了。芸大在学中より、伴奏ピアニストとして演奏活動を開始、多くの声楽家と演奏会、放送などで共演している。オペラの分野でも、日本有数のコレペティートル、チェンバリストとして活躍。新日鐵音楽賞特別賞受賞。



教授
鳥井 俊之
(ピアノ)

前

【略歴】東京芸術大学卒業、同大学院修了。第一級の伴奏ピアニストとして多くの著名な声楽家と共演する。作曲家としても代表作オペラ『ねぶり流し物語』『久保田城下町～押し花の愛』は繰り返し再演されている。第32回秋田県芸術選奨受賞。



教授
原 佳之
(ピアノ)

前 後

【略歴】東京芸術大学附属高等学校、同大学、ウィーン国立音大大学院修了。オーストリア、チェコ、ブルガリア、ポーランド、ドイツ、日本各地でオーケストラとピアノ協奏曲の協演、リサイタル多数。モーツァルト全ソロ作品を演奏。



教授
山田 昌宏
(ピアノ)

前

【略歴】国立音楽大学附属中学校、高等学校を経て同大学ピアノ専攻、首席卒業。ドイツ国立テトモルト音楽大学でピアノのほか、室内楽、伴奏法を学び卒業。ドイツ国内はもとより、ヨーロッパ各国及びアメリカで演奏活動を行う。



准教授
菅野 雅紀
(ピアノ)

前 後

【略歴】東京芸術大学、同大学院を経て同博士後期課程を修了。博士(音楽)。在学中、ロームMF奨学生としてリスト音楽院に留学。全日本学生音コン全国1位、ルミラ国際1位、ホルン国際3位ほか受賞多数。国内外で演奏活動のほか、『四月は君の嘘』音楽監修、各地のコンクール審査をつとめる。東京芸術大学講師を経て本学准教授に就任。



専任講師
大野 真由子
(ピアノ)

前

【略歴】東京芸術大学音楽学部器楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程ピアノ専攻修了。第13回吹田音楽コンクールピアノ部門第1位、第17回友愛ドイツコンクール優秀共演者賞等受賞。大阪センチュリー交響楽団、芸大フィルハーモニー等共演。同声会新人賞及び読売新人賞受賞、両新人演奏会出演。室内楽ピアニストとしても活動中。東京芸術大学管楽器科非常勤講師。



教授
松居 直美
(パイプオルガン)

前 後

【略歴】国立音楽大学、同大学院修了。西ドイツ国立フライブルク音楽大学の国家演奏家コースを卒業。世界各地におけるリサイタル、オーケストラとの共演、またラジオ、テレビ出演などその活動は多岐にわたる。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。



教授
岩井 孝信
(電子オルガン)

前 後

【略歴】武蔵野音楽大学音楽学科管楽器専攻卒業。大学卒業と共に(財)ヤマハ音楽振興会講師として指導者、編曲者、演奏者として全国的に活動。作陽音大講師を皮切りにヤマハ音楽院、聖徳大学短期大学部と教員職を歴任し、現職に至る。



教授
山本 真
(ホルン)

前 後

【略歴】1970年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。在学中安宅賞受賞。1969年日本フィルハーモニー交響楽団入団、1973年NHK交響楽団へ移籍、2004年3月退団。日本ホルン協会会員、国際ホルン協会会員。オーケストラ・吹奏楽の指揮者として活躍。



教授
山本 真理子
(打楽器)

前 後

【略歴】東京芸術大学音楽学部器楽科卒業(打楽器専攻)。日本打楽器協会理事。日本管打・吹奏楽学会会員。日本金管バンド指導者協会副理事長。エンジョイ・パーカッション主宰。ジャパン・レディスプラス指揮者。



准教授
坂本 真理
(ヴァイオリン)

前 後

【略歴】東京芸術大学音楽学部器楽科卒業、同大学院修士課程修了。茨城大学講師を経る。マリーシャ弦楽四重奏団、井崎真理室内合奏団主宰。日本弦楽指導者協会、日本音楽療法学会、日本音響学会、日本音楽知覚認知学会、柏市音楽家協会各会員。



准教授
北川 森央
(フルート)

前

【略歴】東京芸術大学音楽学部附属音楽高校、同大学卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。在学中、芸大パハカンタータクラブに所属。東京芸術大学教育研究助手、新日本フィルハーモニー交響楽団契約団員、東京芸術大学、上智大学、上野学園大学非常勤講師を経て、本学に就任。横浜シフォニエッタフルート奏者。博士(音楽)。



准教授
中村 克己
(クラリネット)

前

【略歴】東京芸術大学大学院音楽研究科修了。東京芸術大学非常勤講師などを経て現職。ミュンヘンにて行われたC.M.v.Weberコンクール第3位。作・編曲者としても数多くのCD、楽譜を出版している。



教授
高松 晃子
(音楽学)

前 後

【略歴】お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科修了。博士(人文科学)。専門は音楽学。お茶の水女子大学助手、福井大学助教授などを経て現職。著書に『スコットランド 旅する人々と音楽』(音楽之友社)ほか。



准教授
松井 孝夫
(音楽教育学)

前

【略歴】東京学芸大学教育学部音楽科卒業。同大学院教育学研究科(音楽教育)修了。公立中学校、東京学芸大学附属大泉中学校、附属国際中等教育学校勤務を経て、2010年より本学准教授。合唱曲集、CD『松井孝夫ベストセレクション』(教育芸術社)ほか。



教授
原沢 康明
(音楽療法)

前 後

【略歴】カンザス大学大学院博士課程修了(作曲)。岐阜県音楽療法研究所主任研究員、青森県の星短期大学教授を経て、2006年本学に着任。音楽療法コースでは音楽療法技能(鍵盤和声、伴奏法、即興演奏)、和声学、ソルフェージュを担当。



教授
廣川 恵理
(音楽療法)

前 後

【略歴】新潟大学教育学部音楽科卒業。新潟県内の高校で非常勤講師、県内各地でピアノ講師として働いた後、米国に留学し音楽療法を学ぶ。カンザス大学大学院で修士号、博士号取得。1997年~99年、岐阜県音楽療法研究所主任研究員。2004年、名古屋音楽大学大学院専任講師、2006年~14年、同助教授、准教授。



准教授
郡司 正樹
(音楽療法)

前

【略歴】国立音楽大学卒、知的障がい児施設で18年間療育に携わる。現在は公立の知的障がい児通園施設及び難聴幼児通園施設など、9カ所の施設で音楽療法を実施。日本音楽療法学会理事、同学会関東支部副支部長。東京音楽療法協会理事。全国音楽療法士養成協議会役員。



准教授
古平 孝子
(音楽療法)

前

【略歴】1987年国立音楽大学教育音楽学科I類卒業、2000年ニューヨーク大学大学院音楽療法コース修士課程修了。同年、ノード・フロビンス音楽療法士資格取得。2004年分析的音楽療法士資格取得。学会認定音楽療法士。



教授
徳丸 吉彦
(音楽学)

前 後

【略歴】音楽学と美学を東京大学で、音楽の実技は個人的に学ぶ。国立音楽大学、お茶の水女子大学、放送大学に勤務の後、2007年度から本学教授。音楽学の分野では民族音楽学と音楽記号学、関連領域としては芸術文化政策を専攻。



教授
坂崎 紀
(音楽学)

前 後

【略歴】東京芸術大学音楽学部楽理科卒、同大学院修了(芸術学修士)。音楽学(西洋音楽史)専攻。尚美学園講師、東京芸術大学助手、明治大学講師などを経て現職。日本音楽学会、情報処理学会、日本オルガン研究会会員。



教授
山本 まり子
(音楽学)

前 後

【略歴】国立音楽大学声楽学科卒業後、お茶の水女子大学大学院、ハンブルク大学(ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生)で声楽と音楽学を修める。博士(人文科学)。専門はドイツ語圏の声楽作品研究。

客員教員



客員教授
甲斐 栄次郎 (声楽)オペラ歌手

【略歴】東京芸術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第39期修了(最優秀賞・川崎静子賞受賞)。オペラ研修所第11期修了。1999年、文化庁在外研修員としてニューヨークへ、2002年、五島記念文化財団の助成によりボローニャへ留学。2003年、ウィーン国立歌劇場にデビュー後、10年間にわたり専属ソリスト歌手を務める。日本声楽アカデミー会員、二期会会員。現在、東京芸術大学准教授。



客員教授
コンラート・リヒター (ドイツリート)ピアニスト

【略歴】ドイツ・デットモルト音楽大学卒業。音楽大学卒業と同時にソロピアニスト、リート伴奏者、室内楽奏者として国際的な演奏活動を行う。ハンブルク音楽大学教授、シュトゥットガルト音楽大学教授、同大学学長を歴任。ドイツ歌曲演奏・解釈の権威。



客員教授
沈 晓明 (電子オルガン)

【略歴】1955年10月中国生まれ。瀋陽音楽学院卒業、国費留学生として作陽音楽大学へ研究生として入学。帰国後、中国における電子オルガンの第一人者として演奏、教育に貢献。瀋陽音楽学院及び中央音楽学院にて電子音楽オルガン学科を設立し、多くの演奏者や指導者を輩出。その影響により中国各地の大学に電子オルガン学科が設置された。中国内外における各種コンクールの開催や審査員を積極的に務め電子オルガン普及に大きく貢献している。現在、瀋陽音楽学院教授、中央音楽学院教授、中国音楽家協会会員。



客員教授
林 康子 (声楽)オペラ歌手/紫綬褒章 受章

【略歴】東京芸術大学・同大学院を経てミラノ・スカラ座付属オペラ科へ。1972年『蝶々夫人』で日本人初のスカラ座デビュー。ロッシニ二生誕180年記念コンクールにて優勝し、世界的プリマドンナとなる。



客員教授
村井 靖児 (音楽療法)

【略歴】慶應義塾大学医学部、東京芸術大学音楽学部楽理科卒。同研究科修士課程修了。医学博士。国立下総療養所精神科医師、国立音楽大学教授を経て、2001年より本学音楽療法コース教授。現在日本音楽療法学会副理事長。著書に「音楽療法を語る」。



客員准教授
宮本 益光 (声楽)

【略歴】東京芸術大学卒業。同大学院修士課程修了。同大学院博士後期課程修了。論文「オペラの日本語訳詞、その方法論」で、学術(音楽)博士号を取得。声楽家およびオペラ歌手として二期会オペラや新国立劇場など数多くのオペラや演奏会に出演。またオペラの日本語訳詞家としての活動も高い評価を得ている。日本声楽アカデミー会員。二期会会員。



客員講師
三矢 直生 (ミュージカル)

【略歴】宝塚音楽学校首席入学。宝塚歌劇団入団。歌える男役スターとして活躍。退団後、東京芸術大学音楽学部声楽科入学。卒業後は、NHKテレビ「夜にありがとう」レギュラー出演等、数々のTV、オペラ、コンサート、ミュージカルに出演。現在、宝塚歌劇団音楽講師も務める。